

埼玉地区ハイキング開催報告

埼玉地区ハイキングは当初予定した11月18日が荒天のため中止となり、11月21日に延期され開催となりました。当日は風も無く穏やかな晴天に恵まれ絶好のハイキング日和となりました。

今回は、小江戸川越の街並み6か所を巡る平坦なコースを選定しました。

参加者は千葉地区から1名、茨城地区から1名の参加があり、総勢10名でJR川越駅に集合したのち川越の街歩きをスタートしました。スタートして間もなく、最初の目的地川越八幡宮に向かう途中道に迷うハプニングがありましたが無事目的地に到着。

川越八幡宮は長元3年(1030)に甲斐守源頼信により創建され、御祭神は応仁天皇で古来より安産・厄除けの神様として崇められています。また、上皇陛下がお生まれになった昭和8年12月23日に植えられた夫婦銀杏は、2本別々だった銀杏はいつしか寄り添いあって成長し、1本の幹に結ばれたご神木(縁結びの銀杏)となり全国的に有名です。

2番目の目的地は埼玉県を代表する寺院として全国的にも有名な喜多院。喜多院は慈覚大師が830年に創建した天台宗の名刹で、正式には星野山無量寿寺喜多院といいます。

徳川家の信任を得ていた天海僧正が第27世住職になると、幕府からの強い庇護を受け、江戸城から豪華な壁画や墨絵で装飾された「客殿」と呼ばれる家光誕生の間や、3代将軍家光の乳母として知られる春日局が使用していた「書院」と呼ばれる春日局化粧の間などが移築されました。江戸城ゆかりの建造物に加え、山門・鐘楼門・慈眼堂などが重要文化財に指定されています

また、同一敷地内に隣接して、駿府で没した徳川家康公の遺骸を日光山へ運ぶ途中で法要が行われたことから建設された日本三大東照宮の1つである仙波東照宮もあり、江戸時代の香りを色濃く残す徳川家とゆかりの深いお寺です。喜多院、仙波東照宮を散策し小休止の後、川越城本丸御殿に向かいました。

川越城は長禄元年(1457)に築城。その後嘉永元年(1948)、新たに本丸に御殿が建てられました。明治になると城としての役目を終え、本丸御殿をはじめとする多くの建物は移築・解体され、その後昭和42年(1967)には大規模な修理工事を実施し、屋根の修理や間取りの復元を行い現在のような公開施設(玄関、大広間、家老詰所等)となっています。また、平成18年に「日本百名城」に選定され、城下町川越のシンボルとなっています。

次の目的地は菓子屋横町ですが、少し手前の元町休憩所で昼食と休憩後、川越の有名なスポット「菓子屋横町」へ。

菓子屋横町は、石畳の道に、約30軒程度の菓子屋などが軒を連ねる、素朴で昔懐かしい味を今に伝える菓子作りの店が立ち並び、一歩足を踏み入れると子供にもどれるような横町です。ここでは自由行動とし、土産の購入や周辺を散策した後、近くにある最後の目的地、時の鐘に向かいました。

時の鐘は、江戸時代の初期、酒井忠勝が川越城主の時に建設されたものと伝えられ、その後何度か焼失、現在の時の鐘は、明治26年の川越大火の翌年に再建されたもので、高さは16mあり、平成8年には、環境省の「残したい日本の音風景100選」に選ばれています。

また、当日は音を聞くことはできませんでしたが、1日4回(6時、正午、15時、18時)に由緒ある音を聞くことができます。

時の鐘を後に蔵造の街並みをゆっくり歩きながら、東武東上線の川越市駅にゴールし解散となりました。

[幹事：高橋 要]

川越駅前集合



喜多院



川越八幡宮



川越城



時の鐘前

